

# 地域リハビリ支援報告書

支援対象者) ○○ ○○様

相談支援事業者) ○○相談支援事業所 (○○ ○○様)

支援日時) 令和○年○月○日 ○時○分から○時○分

支援目的) 1. 自宅で転倒したという報告が多い→自宅での転倒箇所の評価と対策の検討  
2. 体の右傾きが少しずつ進行している→自宅での体傾き助長要因の評価と対策の検討

支援者) 地域リハビリ推進室・デイサービスセンターつながる 木原  
○○相談支援事業所 ○○様

## 支援内容) (母親・姉同席)

### 1. 自宅での転倒箇所の評価と対策の検討

- ①自宅には多くの手すりが設置されている。手すりをつかまっているところでは転倒しない  
以前、脱衣室でよく転倒していたが、浴室入口に手すりを設置したことで、転倒しなくなった



浴室入口に手すりを設置

椅子に腰かけて着替え

手すりや洗面台につかまり立ち上がる

廊下には手すりが設置されている

- ②居室から夜中・早朝に慌ててトイレ(部屋を出て隣)に行く際に、部屋の中やトイレで転倒する  
課題)・ベッドは一般市販品で手すりがなく立ち上がりにくい

- ・部屋内に手すりはなく、タンスやハンガーかけなどにつかまり移動しようとするが、つかまろうとすると、手は伸びるが足がついてこず転倒する
- ・その場方向転換(特に右脚軸)のときは転倒しやすい



- ・トイレの入口の手すりから、便器近くの手すりまで、微妙な距離があり、手すりに手を伸ばしつつ便器に座ろうと後ろ向きに方向転換するときに転倒する



ベッドの隣にポータブルトイレを置くのはまだ若いから気がすすまない(ご本人)

- ③キッチンで朝食をとる時、牛乳やコーヒーを取り手に持って歩くとき、方向転換するとき転倒課題)  
・手すりがないため、棚・台などにつかまりながら移動するが、手が届かない空間がある  
・牛乳などを片手で持つと、つかまりながら歩くことがむずかしい



- ②③に対する  
支援) ・自宅に使っていない歩行器があり、それを使って屋内を移動する



- ・歩行器が安定するように付属の下バッグに2L ボトルを入れ、前にバスケットをつける

物が入るバスケットをつける



2L ペットボトル入れる

2. 自宅での体傾き助長要因の評価と対策の検討  
課題) 屋内では右手で手すりを持ちながら歩くため、体の右傾きが大きくなりやすい  
支援) 歩行器を両手で押して歩くことで、体の傾きが軽減されやすい

※ロフトランドクラッチ（肘支え杖）より  
 四点杖の方が体は傾きにくい

四点杖を四点着いて歩く習慣  
 右脚でしっかり支え、左脚を上げる  
 →デイのリハビリを継続する



特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき  
 地域リハビリ推進室 室長  
 デイサービスセンターつながる センター長  
 木原秀樹 (理学療法士)